



仲間と共に

令和3年度 <三輪南小 学校だより> 令和3年12月22日



「自己肯定感」と「自己有用感」

校長 小野木 義浩

今年度の全国学力・学習状況調査の質問紙に「自分にはよいところがあると思いますか」という問いがありました。本校6年生の子供たちは「当てはまる・どちらかと言えば当てはまる」と答えた割合が約65%。全国や県では約80%だったことを考えると、自己肯定感が低いと言えます。

自己肯定感・そもそも、自己肯定感は「自分にはよいところがあると感じる感情」です。

回答の中には謙遜して低く答えている子や自分のよさに気が付いていない子がいるかも知れません。日頃の様子を見ていると、よさに気が付いていない子が多いようにも感じます。

自分のよさに気が付くには、周りの人から伝えてもらうことが有効です。学校では、すべての学級で「よさみつけ」を行っています。他の子が見つけたよさを本人に伝えるように紙に書いて掲示したり、言葉で伝えたりしています。保護者や地域の皆さんから褒めてもらったことを放送で伝えることもあります。子供たちが「自分にはよいところがある」と感じるようにするには、「自分がしたことには価値がある」と価値づけてもらうことが必要です。

子供のよさを見つけたときにはタイムリーに、そして「あなたのここが素敵だった」「あなたのこの行為がうれしかった」と具体的に褒めたいものです。「〇〇さんが、あなたの△△のことを□□なふうに褒めてみえたよ」という伝え方も、思春期の子供たちにはすんなりと伝わるかも知れません。実は、大人がたくさん褒めていると思っていても、子供たちはそれほど褒められていると感じていないという調査結果もあります。価値のあることを見付けタイムリーに「ほめほめシャワー」を子供たちに浴びせていきませんか。

自己有用感・さて、自己肯定感に似た言葉に「自己有用感」があります。

自己有用感とは「自分の存在がまわりの人の役に立っている、貢献しているとわかっているときに感じる感情」です。これは、周りとの関係がなければ育たない感情です。子供たちは、学校という社会、地域をはじめいろいろな社会で生きています。そこでは、人との関わりが欠かせません。これからは、子供たちには、答えのない問題にも、周りの他の人と協働して解決していく力や姿勢が求められています。だから、子供たちは、多様な周りの人との関わりの中で「自分が人の役に立っている」「自分がやったことでみんなが喜んだり、感謝したりしてくれている」と感じ、社会の中での自分の存在や居場所を実感できるようにしたいものです。

自己有用感と自己肯定感は異なるものですが、自己肯定感とは、人との関わりの中で「自分が役に立っている」という自己有用感が高まるにつれて、着実に高まります。

終わりになりますが・・・特に、コロナ禍の今年は、三輪南小学校は、皆様に本当に支えていただきました。ご理解・ご協力に感謝申し上げます。

来年も、どうぞよろしくお願いいたします。よいお年をお迎えください。

